

花実の森 活動報告(2025年10月)

第165号

活動日	時間	天候 (晴)	記録者 (菅田)
2025年10月25日(土)	8:30~12:30		

参加者氏名 応募数12家族 35名 内子ども18名	<p><u>【スタッフ】</u></p> <p>里山花実の森：田路、樋口、菅田、中原、南木、塩ノ谷、橋野、伊牟田</p> <p>本部：辻本、片山、小山、森下、中塚、塚原、能、中谷、大中、山本</p> <p>救急ボランティア：2名</p> <p>神戸常磐大学ボランティア学生（女性）：5名</p>
------------------------------------	---

今回実施した 内容	<p>親子カブトムシ生育観察会(2025年第3回 幼虫探し)</p> <p>親子自然環境体験型環境学習として企画し、(公財)こうべ市民福祉振興協会の協力を得て実施した2025年度『親子カブトムシ生育観察会』。年間を通して里山に棲むカブトムシの生育観察をしながら、里山を知り学ぶイベント。</p> <p>今回は、今年度の3回目「秋の里山に育つカブトムシ幼虫観察」。</p> <p>後半では、「小枝カブトムシづくり」を実施、出来上がったものは思い出とともに持ち帰ってもらった。</p>
--------------	---

写真記録



心配していた空模様も、今
回は大丈夫。会場の受け入
れ準備も着々と進む。



救急ボランティアのサポートが
心強い。



今回も神戸常盤女子大学の
学生さんがボランティア実習で
参加、お手伝いをしてくれた。



受付で渡した今日のしおりに目を通す親子参加者。今回も
「里山からのおくりもの」として、手作りの小枝・ドング
リグッズをプレゼント。



ヘルメットのサイズ合わせ



ようこそ里山花実の森へ
今日はみんなで楽しみながらカブトムシの観察をやりましょう。



六甲山の自然環境のこと、里山の話、カブトムシの一生などの勉強



さあカブトムシ幼虫がすむ場所へ案内するよ。



イノシシ除けの網で囲まれた柵に案内。
7~8月に産卵⇒10日~2週間で孵化し1歳幼虫に⇒2,3週間で脱皮し2歳幼虫に⇒1か月ほどでまた脱皮し3歳幼虫に。今ここではその3歳幼虫が育っているんだよ。どのくらいの大きさになっているのかな?



手袋は外さないように。ミミズやムカデもいるからね。そうそう、ここへやつてきたとき、柵の中に大きな土ガエル(県の絶滅危惧種)がいたね。





幼虫は柔らかい体なので、そっと優しく探し
ていくんだよ。



幼虫を見つける子どもたちが出始めた。



見つけた幼虫は一旦ここに。



ちょっと幼虫観察をしてみよう。

「足はあるかな?」「あるよ、ここに」「お腹の
横にある9個の黒い点々はなにかな?」「? ? ?」
「カブトムシは口で息をするのではなく、この氣
門という黒い点々で呼吸しているそうだよ、びつ
くりだね」「ヒエ~」



ちょっと紹介するよ。このケースの中には15匹ほどの幼虫が育っているそうです。これは、去年7月に参加してくれた家族が、持ち帰った成虫が生んだ卵から育てたカブトムシだそうで、今日里帰りで持ってきてくれた幼虫です。このあとこの里山で一緒に育てます。皆さんも来年は挑戦してみてください。



後半は小枝カブトムシづくりを楽しむ



カレッジ玄関わきの軒下で会場準備も完了

作業要領を手作りしおりの内容に沿って説明



事前に若干の加工をしたばらばらのパーツと、自在に足の形が作れる小枝の束をセットにしたものと、写真や見本を参考に作業開始。



まず足の位置を決めて…その上に体をのせる。



少しづつカブトムシらしくなってきた。



木工ボンドとグルーガンは接着場所により使い分けるとやりやすいよ。



完成まじか・・・



ボランティア活動の実習？で参加された常盤女子大学のみなさんもお疲れさまでした。
楽しかったですか？

今回の製作見本



見本1:イーゼル式

見本2:卓上額縁式